

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和7年5月1日現在

江戸川区立南小岩小学校

全国学力・学習状況調査 A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和8年度の目標	50.0%	45.0%
令和7年度の目標	45.0%	40.0%
令和6年度の結果	42.6%	26.2%
令和5年度の結果	44.6%	39.8%

令和6年度江戸川区学力調査結果 A・B層の割合		
学年	国語	算数
第6学年	29.8%	30.8%
第5学年	35.8%	38.8%
第4学年	38.4%	50.8%
第3学年	37.8%	39.4%



目標達成に向けた取組			
	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 算数科の授業において、「江戸川区算数スタンダード」を活用し、問題把握→自力解決→学び合い→振り返りを意識した授業作りを実践する。 ICT機器を1日に数時間以上使用した授業展開を構築する。 タブレットの機能を活用し、児童の実態把握を行い、苦手分野やつまづきを分析して授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 週2回以上「ドリルパーク」を活用した学習を行い、漢字と計算技能の定着を図る。 読書科の授業や週2回の朝読書等を通して、本で学ぶ児童を育てる。(調べる学習コンクール…高学年出品) 高学年の児童が子供新聞を活用できるような環境を整えることや記事と学習を関連させること等を行い、言葉の構築に繋がるよう語彙を増やしていく。 全校(1年生は2学期から)算数科において、習熟度別指導を取り入れ、きめ細かな指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年、週1回日記を書く活動を取り入れる。 中学年以上は、自主学習に取り組ませる。 4年生以上は、「よむYOMUワークシート」週1回程度取り組む。 週3回の朝読書の時間を設けて、文字を読む習慣を身に付けさせる。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのユニバーサルデザイン」を意識した授業づくりを行う。 タブレットの機能を活用し、児童の実態把握を行い、苦手分野やつまづきから効果的な指導方法となるよう、授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「EDOスク」において、担当と連携を図りながら、児童一人ひとりのつまづきを把握する。 タブレットを活用し、基礎基本学習の定着を図るるように繰り返し取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ドリルや計算ドリル等を実施する際、毎日シールをためる取組を行う。 自己肯定感が高められるよう、個々に課題設定を行なながらスマールステップで取り組ませ、学習の習慣が確立できるよう支援を行う。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」肯定的な回答の割合 70%以上になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの診断テスト8割達成者70%以上になっているか 	<ul style="list-style-type: none"> Study weekの全児童の目標達成率が80%以上になっているか。